

## 森づくりの機運を高める全国植樹祭 天皇皇后両陛下のご来県は27年ぶり

「第76回全国植樹祭えひめ2026」の記念式典が5月17日、愛媛県総合運動公園で行われました。森林の大切さを伝える国土緑化運動の中心的行事で、愛媛での開催は60年ぶり2回目。式典では天皇皇后両陛下が苗木のお手植え・種のお手播きなどを行われ、来場者は森を育て引き継ぐ気持ちを新たに「見守りました。緑化功労者表彰では、内



子町から梅岡茂則さん、藤岡雄二さん、本田富雄さん、大鍋直幸さん、内子町林業研究グループに知事感謝状が贈られました。会場では森への思いを寄せた「愛レター」、大阪関西万博の大屋根リングの材料を利用したウェルカムゲートなど、森に関する展示を用意。招待者による記念植樹もあり、森林保全の意義を再確認する一日となりました。



上 内子産ギルディング和紙で装飾した「お野立所」にいらした両陛下が植樹する内子町議会の皆さん

## 打球に一喜一憂のクロケット大会 集中力を見せた小田勢が頂上決戦

「内子町長杯クロケット大会」が6月10日、内子運動公園で開かれました。町内の老人クラブから29チーム・117人が参加し、競技を通じて交流を深めました。決勝は小田と寺村Aの両チームが対戦しました。周りの声援を受け、最後

は接戦の末に小田が初優勝。愛媛県シニアクラブスポーツ大会への進出を決めました。町老人クラブ連合会の谷本功副会長は「私も今年から始めたが、見るのとやるのは大違い。皆さん元気に、それぞれの立場で頑張りました」と話しました。



ゲートに対して角度がある難しい場面。放ったボールの行方は――

## 多感な中学生の心震わす言葉の力 ゴルゴ松本さんが贈る「命の授業」



「つらいなら周りを頼って。大人になって恩返しすればいい」と熱く語る

中学生に向けた青少年健全育成講演会が5月27日、共生館で開かれました。今年はお笑い芸人のゴルゴ松本さんが3年ぶりに「命の授業」で登壇。「意思の『意』は心の音。表現する練習をして」「息が詰まったら息抜きをして、生き抜いて」と、さ

まざまな言葉と解釈で生きることの大切さを伝え、最後はおなじみの「命」のポーズで会場を沸かせました。生徒らは真剣な表情で聞き入り「命を懸けて生んでくれた母に感謝したい」「夢を諦めず頑張ろうと思えた」と、熱い言葉を胸に刻みました。

## 人間力を養う、おだこう特別授業 全校84人が主役の「オダカン」再始動

内子高校小田分校生による全校会議「オダカン」が6月3日、同校で2年ぶりに開かれました。今回は小田燈籠まつりをテーマに、当日に高校生が実施する企画を12班に分かれて協議しました。講師の納堂邦弘さんから「みんなが楽しめる、来年

にもつながることを考えてみて」とアドバイスを受けて、最後に各班がアイデアを発表。グランプリには「地域の人には昔のにぎわいを、若者には伝統を感じてほしい」と提案した「わくわく！だんじり復活プロジェクト」が選ばれました。



「魅力を広め、また来たいと思ってほしい」と、前向きな議論が交わされた

## 伝統的な農村文化を体感できるまち 内子町を「世界に発信すべき」と認定

持続可能な地域の実現に取り組み日本の自治体を認定する「The Japan Times Destination Region 2026」にこのたび、内子町が選ばれました。世界に発信すべき地域として（株）ジャパンタイムズが認定・紹介するもので、内子町が2例目。認定にあたりアドバイザーを務めた日本総合研究所首席研究員の藻谷浩介さんは「本物の日本に出会える

場所。地域の人々が暮らしや町並みを守り続け、文化を継承してきた点が魅力」と評価しました。小野植正久町長は「先人の生きた証として継承してきた文化や歴史、景観はまちの誇り。より磨きをかけ、心豊かに暮らせるまちづくりを皆さんと実践したい」と述べました。※詳細は内子町のホームページをご覧ください。  
ID 146601

## 繁栄を支えた産業のルーツに迫る 九州の木蠟業に学ぶ講演会



講演会「木蠟業の歴史」が6月13日、内子自治センターで開かれました。講師は元福岡大学研究推進部古文書室の後藤正明さん。「筑前国・高橋善蔵の技術書『窮民夜光之珠』の影響で、製蠟技術は大洲藩へ伝わった」と、九州と内子の木蠟業の関連

を解説しました。品質向上を目指す全国組織設立から減産の歴史、元文化庁長官の「木蠟は文化」の言葉にも触れ、「天皇陛下の黄櫨染御袍、力士の鬘付け油――ハゼノキは日本文化に関わり深い。子や孫に伝える意識を向きたい」と語りました。



次世代へ伝える努力、地域資源の活用、他地域へ貢献する可能性などを踏まえて選出される